

第 561 回 放送番組審議会

1. 日 時 2020 年 3 月 17 日 (火) 午後 1 時 30 分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6 階 大会議室

3. 委員総数 8 名

出席委員 8 名

委員長	大橋 綾子
副委員長	佐藤 健志
委員	加藤 千晶
委員	高橋 司
委員	渡辺 理雄
委員	前田 千香子
委員	石田 亨
委員	柿木 康孝

欠席委員 0 名

社側出席者	榎野 信治	(代表取締役社長)
	青山 尚之	(専務取締役事業局長)
	池田 学	(取締役経営企画局長 兼 技術局長)
	柴柳 二郎	(報道制作局長)
	小形 恵一	(報道制作局次長 兼 報道部長)
	三浦 裕紀	(報道制作局報道部)

事務局	畑山 篤	(取締役編成局長 兼 放送番組審議会事務局長)
	小岩 祥子	(編成担当局長)

4. 議 題

1. 3/11(金)15:50～16:50 報道特別番組

復興そして自立への道～東日本大震災から9年～

2.その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

・視聴者からのご意見

6. 意 見

委員側意見

- 最初のところで、「本当に必要なものは何ですか」というコピーが表示されていて、問題提起というか、非常に良かった。
- 発生時はあまり言えなかったことがあるのではないかと思う。そういうことも一緒に掘り下げて、色々と放送してもらえるといいのではないかと感じた。
- 3月11日にこの番組を見るということが、映像の定点観測ということもあるけれども、見る人自身、私自身の心の定点観測になっているのだとすごく感じさせられた。
- 解答案を識者に語らせるというのは簡単ではあるけれども、どれも非常に難しい課題で安易に解決策を示すこともできないと思う。視聴者と共に考えていこうという姿勢がよく表れているような番組だったと思う。
- 14時46分の震災の発生時間に居合わせたあと、この番組が15時50分にもうスタートしてその時間に間に合わせるというスタッフの技術力の高さが素晴らしいと思った。
- キー局などでは震災関連に割く時間が少なくなってきたという印象なので、こういったことは地元のメディアがしっかりとやっていくことなのだと思う。
- 今後はハード面の復興状況というところのウエイトを下げて、人口問題や地方財政といった課題にどう取り組んでいくのか、踏み込んだ企画をぜひお願いしたい。
- 内容はとても充実していたのだが、盛りだくさん過ぎて、終わってみて一番心に残ったものがちょっと良くわからなくなってしまった。
- 震災直後はできなかったような検証や分析といった番組、特に福島原発関連の番組のようなものをぜひテレビ岩手で見てみたい。

局側意見

- 9年の時だから言えなかったことを伝えてほしいというご意見があったが、今回とても評価を頂いた高田の女性はずっと引きこもりをされていて、3年目くらいからようやく出られるようになって、そこで当時駐在していた女性記者が仲良くなって、ようやく9年目にして取材ができた。

○「本当に必要なものはなんですか」というコピーを冒頭のVTRのところを使ったのだが、ど
んどんハードの復興が進んでいく中で、より解決策が難しくなっていて答えにくくなってい
るとというのが被災地の現状だと思うので、自分自身にも問いかける意味でああいうコピー
を付けて番組を作った。

7. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年
月日

公表の方法

- ①自社放送 3月24日(火)11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」
- ②テレビ岩手本社での備え置き
- ③読売新聞への掲載(別添)
- ④自社HPでの掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>